

平成 25 年 12 月 2 日

県内での豚流行性下痢の発生について（2例目）

このことについて、下記のとおり県内で発生がありましたのでお知らせします。

なお、本病が一度農場へ侵入すると、子豚を中心に多大な被害が出ることから、感染防止対策に努められますようお願いいたします。

養豚農場では、車両及び靴底消毒の徹底や農場の立入り制限等、飼養衛生管理基準の遵守徹底をするとともに、ワクチン接種等の予防対策の実施やPEDを疑う症状発見時の家畜保健生所、獣医師等への早期通報について御留意願います。

記

- 1 発生年月日 平成 25 年 11 月 29 日
- 2 発生農場 母豚 200 頭一貫経営農場
- 3 発生状況 別紙のとおり

茨城県における豚流行性下痢の発生概要（2例目）

- (1) 農場の所在地  
茨城県県央部（1例目農場から約 600 m の位置 ※疫学関連は不明）
- (2) 農場の飼養状況  
1,720 頭（種豚 20 頭、母豚 200 頭、子豚 1500 頭）
- (3) 発生頭数  
種豚： 4 頭  
母豚： 34 頭  
子豚： 180 頭（うち死亡頭数 103 頭）
- (4) 確認までの経緯  
11月24日 畜主が2棟ある分娩舎のうち1号分娩舎の母豚1腹の哺乳豚で下痢を確認。夜には当該母豚の哺乳豚全頭で下痢を確認。  
11月25日 畜主から家畜保健衛生所に検査依頼。  
家畜防疫員による立入検査を実施。1号分娩舎の母豚9腹の哺乳豚で下痢・衰弱を、2号分娩舎の母豚3腹の哺乳豚で下痢を確認。  
また、母豚の下痢・嘔吐は認められなかった。  
哺乳豚1頭で病性鑑定を実施。  
11月29日 病性決定を受け、再度家畜防疫員による立入検査を実施。  
哺乳豚の死亡及び1号分娩舎12腹、2号分娩舎7腹、計19腹で哺乳豚下痢を確認。その他ストール・交配舎を含め母豚（15頭）、種雄豚（4頭）の下痢、嘔吐を確認
- (5) 病性鑑定結果  
＜臨床症状＞  
下痢、嘔吐、母豚の泌乳停止  
＜剖検所見＞  
胃の膨満、未消化凝固乳滞留、胃壁のひ薄化、小腸・大腸ともガスが貯留、壁のひ薄化が見られ、未消化物が散見された。  
＜精密検査＞  
空回腸及び結腸内容物の PCR：PED 陽性（TGE 陰性）  
＜遺伝子解析＞（動物衛生研究所で実施）  
11月29日、先般沖縄県、茨城県1例目で分離された株と遺伝学的に完全に一致しないもののごく近縁であり、沖縄株、茨城1例目株と同様、過去の国内分離株とは明確に区分されたものの、近年米国及びアジア諸国で流行している株と近縁であることが判明（別紙参照）。
- (6) 防疫措置等  
消毒（車両、畜舎、手指消毒）の実施、母豚へのワクチン接種実施（11月17日）、飼養衛生管理基準の徹底を指導。  
感染経路等の疫学調査を実施中であるが、茨城県1例目発生農場との疫学関連は確認されていない。周辺農場には異常なし。

茨城県発生事例（2例目）における PED ウイルス遺伝子解析結果について

茨城県発生事例（2例目）の材料を用いて PED ウイルス遺伝子解析を行ったところ、ウイルス遺伝子は先般の沖縄県、茨城県1例目での発生事例の株とは完全に一致しないもののごく近縁であった。

また、沖縄株、茨城1例目株と同様、2006年以降にアジア諸国および米国で流行している株と遺伝学的に近縁であり、1980年代および1990年代の国内流行時に分離された株とは明確に区別された。

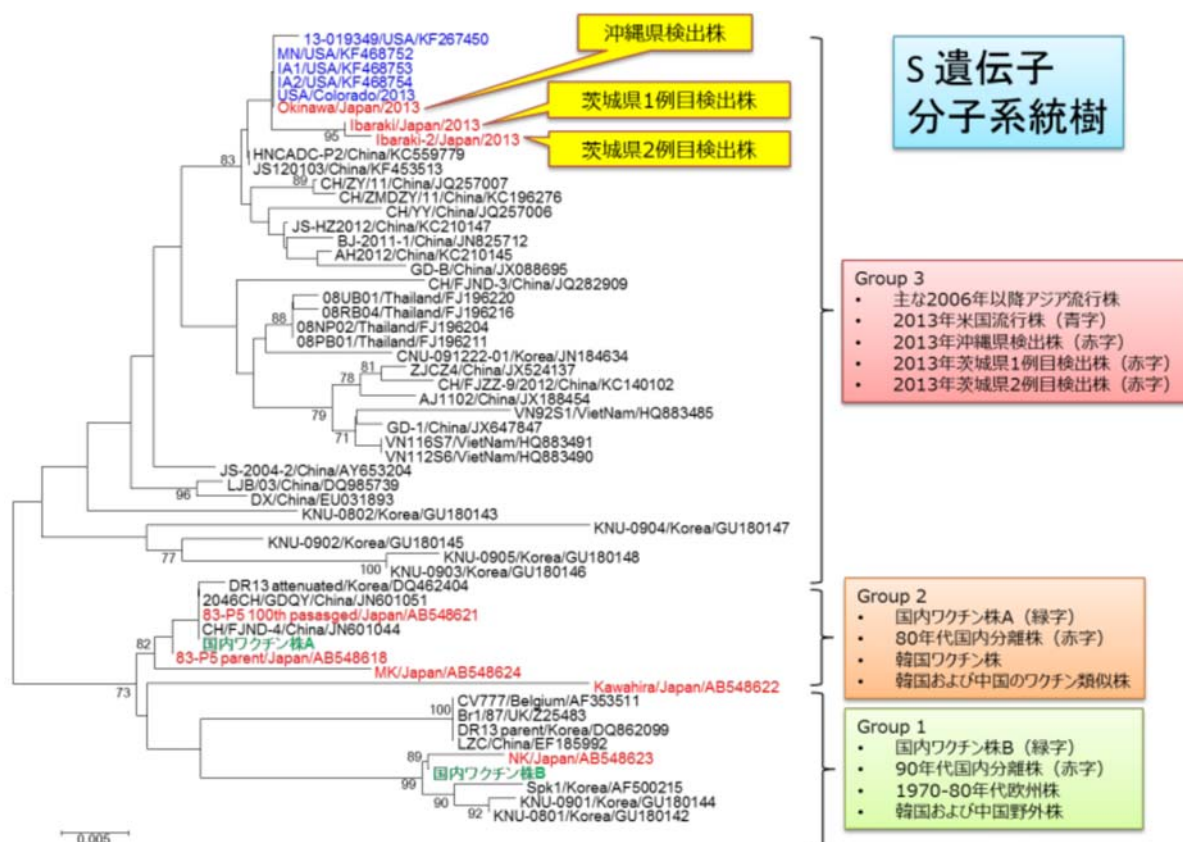


図 PED ウイルス スパイク (S) 遺伝子領域部分的塩基配列に基づく分子系統樹